

## ため池と庄屋

江戸時代、水不足に悩まされていた地域では、ため池をつくることが発案されました。ため池を築造するためには、関係者との調整や藩への請願、資金の捻出、労力の確保などの課題を解決して、みんなを引っ張っていくリーダーが必要でした。香川県丸亀市の打越下池と愛媛県松山市の堀江新池の例をご紹介します。

### ■打越下池（香川県丸亀市）

綾歌町（現丸亀市）岡田地区は、打越下池（うちこししもいけ）ができる以前は、主な水源として打越池古池（打越上池）などがあるだけで、農民は日照りを気遣いながら、天水を頼りに細々と水田を養っていました。岡田村の大庄屋・木村甚三郎は父親の又左衛門の遺志を継いで10数年にわたり藩に打越下池の新築を請願し続け、文政10年（1827）に許可されました。許可後、甚三郎は自分の田を売って資金を捻出し、ほとんど寝食を忘れて工事に集中し、文政12年に打越下池を完成させました。打越下池の水量は打越上池の倍を誇り、3年間の工事期間に費やされた人夫は6万5千人に及びました。下流に打越下池の碑が建立されています。＜綾歌町教育委員会編「綾歌町史」1976年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年＞



打越下池

copyright-2013 西園興業アーカイブス



打越下池之碑

copyright-2013 西園興業アーカイブス



(地理院地図に加筆)

### ■堀江新池（愛媛県松山市）

堀江村（現松山市）の田畑では郷谷川、権現川、大川などから水を引いていましたが、いつも水が不足がちで、数年に一度は干害にあっていました。そこで庄屋・門屋一郎次はため池の築造を発案し、松山藩に働きかけました。藩は許可を与え、工事費の補助と人夫のための米を与えました。村人は一丸となって作業に励み、3年の歳月をかけて天保6年（1835）に藩内最大のため池が完成しました。池の中ほどに中土手がつくられていますが、これは大風の時にできる波立ちによって堤防が壊されるのを防ぐためのもので、先人の知恵を見ることができます。堀江新池は平成22年（2010）に農林水産省のため池百選に選定されました。＜松山市堀江公民館による堀江新池の標識など＞



堀江新池

copyright-2013 西園興業アーカイブス



全国ため池百選の標識

copyright-2013 西園興業アーカイブス



(地理院地図に加筆)